

## 令和2年度アイヌ施策推進地域計画目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
札幌市	札幌市アイヌ施策実施プラン	令和5年度

### 1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 (A)	実績値 (B)	達成率 (%) (B/A)	備考
体験交流事業参加者数 (※1)	150 人/年間	66 人/年間	44%	
文化体験講座参加者数 (※2)	240 人/年間	242 人/年間	101%	
アイヌ文化交流センター来館者数	54,000 人/年間	26,930 人/年間	51%	
アイヌ民工芸品販売会購買者数	850 人/年間	953 人/年間	112%	
体験プログラム参加学校数 (※3)	130 校/年間	112 校/年間	86%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
体験交流事業参加者数	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う一部講座の開催中止等により、目標値の達成には至らなかった（前年度計上数値なし）。	
文化体験講座参加者数	コロナ禍ではあったが、受講料等を無料としたため、各講座とも参加希望が多数得られ、目標値を達成した（前年度比 34%増）。	
アイヌ文化交流センター来館者数	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、4/14（火）～5/31（日）を臨時休館にするなど、一年を通して来館者が大幅に減少し、目標値の達成には至らなかった（前年度比 54%減）。	
アイヌ民工芸品販売会購買者数	コロナ禍ではあったが、札幌駅前通地下歩行空間において、多数の歩行者から関心を得られ、目標値を達成した（前年度計上数値なし）。	
体験プログラム参加学校数	無料送迎バスを導入するなどしたため、申込数は大幅に増加したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、申込後に中止とした学校もあり、目標達成には至らなかった（前年度比 24%増）。	

#### 【札幌市アイヌ施策推進計画における意見等】

- ・ 数値目標の達成要因を検証するとともに、受講料の無料化や無料送迎バスの確保以外の魅力創出などにより、各事業において目標達成を目指すことが必要である。
- ・ コロナ禍が今後も続くことを想定し、市民の行動変容等に沿った手法を取り入れることについても検討が必要である。

## 2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

### (1) アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験交流事業は、令和2年度から令和5年度まで、各年度とも数値目標を150人／年間としている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を優先としつつ、広報活動の充実などを図り、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
体験交流事業の実施を通じ、市民がアイヌ文化を気軽に体験できる機会に加え、アイヌ文化の担い手を育成する機会を創出した。	

### (2) アイヌの伝統等に関する理解の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
文化体験講座は、令和3年度以降300人／年間の達成を目指している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を優先としつつ、開催内容の充実などを図り、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
受講料等を無料にしたことで、今まで以上に市民が気軽にアイヌ民族の歴史や伝統文化に触れ、理解を深める契機を創出した。	

### (3) 観光の振興その他の産業の振興に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
令和5年度において、札幌市アイヌ文化交流センターの来館者数は62,000人／年間を、また、アイヌ民工芸品販売会購買者数は1,000人／年間を目指している。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を優先としつつ、同センターに関しては展示物や展示案内等の充実を、また、販売会に関してはニーズを踏まえた商品の開発などをそれぞれ図り、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
屋内外の展示物の更新や、展示案内の多言語化を図り、来館者がアイヌ文化について理解を深めるための環境がより一層充実した。 また、販売機会の確保を通じ、都心部において、気軽にアイヌ民工芸品を購入でき、生活の中で身近にアイヌ文化に触れられる機会を創出した。	

(4) 地域内若しくは地域間の交流及び国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
体験プログラムは、令和元年度から令和5年度まで、各年度とも数値目標を130校／年間としている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を優先としつつ、新規実施校の確保など、引き続き数値目標の達成に取り組む。	札幌市
事業の効果	
体験プログラムの提供により、アイヌ民族との交流機会を創出し、児童・生徒がアイヌの歴史や伝統文化について理解を深める契機を創出した。また、実施希望校全てへの無料送迎バスの導入や、ムックリの配布などを実施したため、新規実施校が大幅に増加した。	

3. 今後の方針等

各事業の実施に当たっては、数値目標の達成・未達成に至った要因を分析し、実施手法等の更なる改善に取り組む。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取組を徹底するとともに、コロナ禍においても効果的に事業を実施できる手法について、引き続き検討を進める。
--